

# P・I・A シート

～「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善 実践事例～  
中学校特別活動 編 ① 概要

校種・学年	中学校・1学年	教科等	特別活動
題材	SNSにおける発信の仕方について考える 学級活動「(2) エ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成」		
題材について	<p>近年、SNSでの書き込みによるトラブルが大きな社会問題となっており、子供たち自身も加害者や被害者になる可能性がある。</p> <p>本題材では、情報の送り手の立場を中心に、情報を発信・受信する際の注意点や公開範囲の違いによるリスクなどを考えるように指導する。その際、情報を発信する自由(表現の自由)がある一方で、どのような情報が人を傷つけることになるのかというリスクの想像が重要となる。</p> <p>また、SNSでの発信がすべて悪いわけではなく、上手に活用するという視点から考えると、従来の情報モラル教育で行われてきたような「SNSで情報を発信しない」といった「〇〇しない」という指導だけではなく、「どうしたらリスクを減らして上手に活用できるか」という活用を意識した指導が必要になってくる。</p>		
本時のねらい	発信する情報や情報社会において、自ら行動に責任をもち、具体的に行動できるようにする。		
目指す生徒の姿	<p>【知識・技能】 情報モラルにおいての問題点や解決方法を理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】 自分の課題に合った具体的なめあてや実践方法を決めている。</p>		

## 事例の概要(見どころ)

文部科学省は、情報化の進展に伴う新たな課題に対して学校において適切な指導を行うため、「情報化社会の新たな問題を考えるための教材～安全なインターネットの使い方を考える～」として、動画教材及びモデル指導案等を作成している。

本実践例は、GIGAスクール構想による1人1台端末の整備や、SNSでの書き込みによるトラブルの問題などを踏まえ、令和2年度追加版で示された「思ったままSNSに送信しただけなのに」に関する動画教材と、それに対応したモデル指導案をもとに実践した授業である。

【参考】[情報化社会の新たな問題を考えるための教材<児童生徒向けの動画教材、教員向けの指導手引き> : 文部科学省](#)



発行：令和5年3月  
埼玉県教育局南部教育事務所  
<https://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/g2201/index.html>



# P・I・A シート


## ～「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善 実践事例～ 中学校特別活動 編 ② 指導展開

○ねらい 発信する情報や情報社会において、自ら行動に責任をもち、具体的に行動できるようにする。

○準備 ワークシート・タブレット端末・大型モニタ

映像資料（文部科学省：情報化社会の新たな問題を考えるための教材）

○展開（1 / 1）

生徒の活動	○指導上の留意点	資料	◎目指す生徒の姿 【観点】（評価方法）
<p>1 タブレット端末で、SNS に関するアンケートを行う。</p> <p>2【つかむ】 アンケート結果を即時に提示し、「SNSがどれだけ身近なものなのか」を実感し、本時の課題を知る。</p>	<p>○授業前に生徒全員がログインできているようにする。</p> <p>○ほとんどの生徒が日常的に SNS を利用していることを確認し、アンケート結果を本時の課題へとつなげる。</p>	<p>タブレット端末 大型モニタ アンケート結果</p>	<p>【授業改善の視点】 アンケート結果をモニタに映しながら進めますが、展開に深く関わり残したい資料等については、黒板掲示用に用意することも有効です。</p>
<p>本時の課題：SNS におけるの上手な発信の仕方について学ぼう</p>			
<p>3【さぐる】 映像資料「思ったまま SNS に送信しただけなのに」（文科省）を視聴する。</p>	<p>○登場人物の行動の何が問題か考えて視聴する。</p> <p>○具体的にどこに発信してよいかワークシートの選択肢(右)から選択させ、理由を記述する。</p>		<p>【ワークシート例】</p> <p>思ったまま SNS に送信しただけなのに</p> <p>「私が決めた SNS の利用の仕方宣言」</p> <p>【授業改善の視点】 「さぐる」場面では、問題の原因や解決する必要性などについて探ります。学習内容に応じて動作化（実際に活動してみたり試したりすること）も考えられます。</p>

生徒の実態に即した授業展開にするために、Google フォームにおけるアンケートを活用しています。

登場人物の行動の何が問題か、考えながら視聴するよう促していました。ワークシートにも、同様の視点が示されていました。

#### 4【見つける】

スクールタクトを使用して映像資料の問題点と解決方法についてグループで意見を出し合い、全体で共有する。

ICTを活用しながら、グループごとに改善策を出し合いました。直接の話し合いではなく、画面上で、協働学習を進めていたところが特徴的な取組でした。

○情報を発信する自由とともに責任とリスクについて考えさせる。

予想される反応

##### 【問題点】

- ちひろさんに対する最後の書き込みが、ちひろさんが Moen@ちゃんに対して行った行為と同じであること。
- 発信することにもメリットはあるが、それが誰かを傷つけることにつながる可能性もあること。

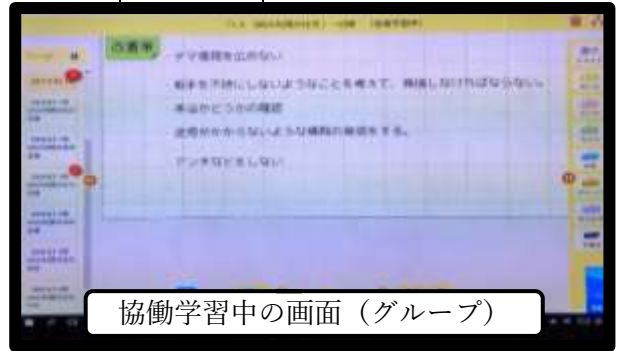
##### 【解決方法】

- この情報を誰が見るか、見た人がどう思うかを想像し、リスクと責任を考えながら情報発信をすること。

◎動画から考えられる情報モラルにおいての問題点や解決方法を理解している。【知・技】  
(発言、ワークシート)

##### 【授業改善の視点】

「みつける」場面では、みんなでよりよい解決方法や努力事項などについて出し合って見つけていきます。生徒が主体的に問題解決の方法や対処の方法を考えられるよう、必要な情報は、教師から提供することも考えられます。



協働学習中の画面（グループ）

#### 5【決める】

出し合った解決方法の中から、自分の課題に合った実践方法を具体的に決める。

インターネット等の情報をSNSを活用し発信する場合、どのようなことに気を付ければよいか、意思決定することができていました。

- 個々の課題にあつためあてや実践方法を決めて、ワークシートに記入できるようにする。
- 「私が決めた『SNSの利用の仕方宣言』」に清書させる。

ワークシート  
「私が決めた『SNSの利用の仕方宣言』」

◎自分の課題に合った具体的なめあてや実践方法を決めている。  
【思・判・表】(ワークシート、発言、観察)

##### 【授業改善の視点】

「決める」場面では、自己の課題を解決するために努力すべき具体的な個人目標(内容や方法など)を決め、実行への強い意志を持たせることが重要です。



6 個人目標を発表する。

○授業後の実践に繋がるような具体的な助言ができるようにする。

##### 【事後指導】

事後指導では、生徒が目標実現に取り組む姿を認め、励まし、成果を上げることができるように指導します。生徒が「やればできる」「頑張ってたよかった」などの自己効力感や自己肯定感を持てるようにすることが重要です。